

# 漁場生産力向上のための漁場改善実証試験 漁場生産力低下の原因解明

朝田健斗・加藤慎治・多田篤司・吉田和貴・廣澤晃

近年、栄養塩濃度の低下に伴いノリ、ワカメの色落ちが頻発している瀬戸内海において、藻類養殖に必要な栄養塩を供給し栄養塩環境を改善するための手法開発及び実証試験を実施する。

本事業は 紀伊水道西部及び周辺海域のノリ・ワカメ養殖漁場において、海水中の栄養塩濃度等の現場観測を行い、海域の栄養塩濃度とノリ・ワカメ生産力との関係を明らかにすることを目的としている。なお、本試験の詳細は「平成31年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発報告書」を参照されたい。

## (1) 栄養塩濃度等の定期観測

本事業報告書の「藻類養殖漁場環境調査」を参照されたい。

## (2) 養殖ワカメのSPAD値の測定

養殖ワカメの生産状況の把握及び藻体の色合いの指標となるSPAD値の測定を、紀伊水道南部の今津で適宜行った。SPAD値は、葉緑素計（SPAD-502 Plus：コニカミノルタ社製）を用い、藻体の最大裂葉の欠刻部から裂葉先端に向かって10cmの間にて3カ所測定した平均とした。

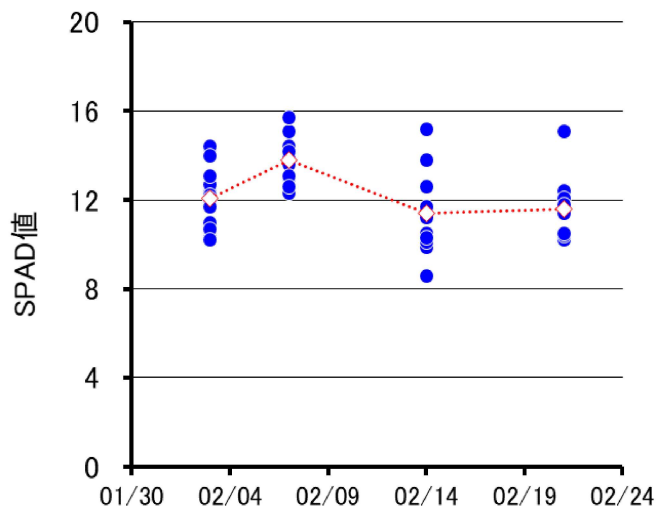


図1. 平成31年度漁期の養殖ワカメSPAD値の変化.